

8. 調査の結果

8.1 生物の生育・生息基盤

8.1.1 調査事項

調査事項は、表 8.1-1 に示すとおりである。

表8.1-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・植栽基盤（土壌）の状況 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。 ・計画地内には、既設の緑地と合わせて約 9,970m²の緑地を整備する計画としている。 ・地上部緑化として、高木、中木等を植栽する。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。 ・植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都環境局）等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮して選定する。

8.1.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.1.3 調査手法

調査手法は、表 8.1-2 に示すとおりである。

表8.1-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度 	
調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況及び緑化計画図の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。

8.1.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項及び予測条件の状況

ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

計画地は駐車場、江戸川区臨海球技場第二及び未利用地であり、生物・生態系の賦存地としては、計画地の南側及び西側の高さ5～10mに生育したクロマツ植林と、駐車場の北側及び西側に広がるヨシ群落が存在していた。事業の実施により、計画地内の一部の既存樹木が伐採されたが、クロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。

また、計画地に隣接する葛西臨海公園には同様のクロマツ植林のほか、植栽樹群が広がっており、これらは改変していない。

また、計画地周辺の主な生物・生態系の賦存地としては、計画地の南側400mの葛西海浜公園に湿地・干潟が存在するが、これらの生物・生態系の賦存地についても、事業の実施による改変は生じなかった。

以上のことから、事業の実施による生物・生態系の賦存地の改変の程度は小さい。

イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、計画地内の一部の既存樹木が伐採されたが、計画地の南側及び西側のクロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。

事業の実施に当たっては、「4. カヌー・スラロームセンターの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (7)緑化計画」(p.15 参照)に示したとおり、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画である。

以上のことから、事業の実施により新たに生物の生育・生息基盤が創出される。

2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1-3 に示すとおりである。なお、生物の生育・生息基盤に関する問合せはなかった。

表8.1-3 ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション 実施状況	・クロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。 計画地の南側及び西側のクロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。
	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 計画地南側のクロマツの保存 計画地西側のクロマツの保存 </div>	
ミティゲーション 実施状況	・計画地内には、既設の緑地と合わせて約 9,970m ² の緑地を整備する計画としている。 既設の緑地と合わせて 13,278m ² の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽し、動植物が生育・生息する基盤を創出する。
	
競技コース内に整備した芝生	
ミティゲーション 実施状況	・地上部緑化として、高木、中木等を植栽する。 今後の外構工事により、地上部緑化として、高木約 40 本、中木約 600 本、低木約 4,000 本を植栽する予定である。
ミティゲーション 実施状況	・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。 地上部緑化においては、樹木等が良好に生育するよう十分な厚みの植栽基盤を確保する。
ミティゲーション 実施状況	・植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月東京都環境局）等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮して選定する。 植栽樹種は、「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都環境局）等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性も考慮し、ヤマモモ、オオシマザクラ、ナツツバキ、サルスベリ、ヤマボウシ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、ハマヒサカキ等を選定した。

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

計画地は駐車場、江戸川区臨海球技場第二及び未利用地であり、生物・生態系の賦存地としては、計画地の南側及び西側の高さ5～10mに生育したクロマツ植林と、駐車場の北側及び西側に広がるヨシ群落が存在していた。事業の実施により、計画地内の一部の既存樹木が伐採されたが、クロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。

また、計画地に隣接する葛西臨海公園には同様のクロマツ植林のほか、植栽樹群が広がっており、これらは改変していないことから、事業の実施による生物・生態系の賦存地の改変の程度は小さいと考える。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、計画地内の一部の既存樹木が伐採されたが、計画地の南側及び西側のクロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。

事業の実施に当たっては、「4. カヌー・スラロームセンターの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (7)緑化計画」(p.15 参照)に示したとおり、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画であることから、事業の実施により新たに生物の生育・生息基盤が創出されると考える。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。